

新入職員の皆さんへ

理事長 石井 暎禧

新入職員の皆さん、医療崩壊という言葉聞いたことがありますか。

小児科や産婦人科の医師が勤務のきつい病院から次々とやめて、お産や小児救急ができなくなっている事を表している言葉です。新しく医師になった人たちもこうした「きついけれども報われない診療科」を選択しなくなっています。

実は問題は、産科、小児科にとどまらず第一線の地域医療を展開する全ての病院の診療科において似たような事態が進行している事にあるのです。私たちの病院も例外ではなくかつてないほど厳しい現実さらされています。

その原因はいくつかあります。まず医療技術・機器の進歩によって以前は不治であった病気が治るようになったのと引き換えに一人の医師にかかる負担は飛躍的に増えたのです。又、高齢化社会の到来によって80歳代以上の方の手術も普通に行われるようになりました。それは、多くの合併症を持つ患者が増えることにつながり、手術はとても神経を使います。

そのうえ、近年では患者が納得するまで説明を受けるべきといういわゆるインフォームド・コンセントが当然のように求められます。又、医療訴訟もとても増えています。これらの事の良し悪しを論ずる前に、医療現場で働く医師は、高度化、複雑化する医療技術と、患者の狭間で非常に揺れながら職務に当たっているのが現状なのです。医療は複数の職種で構成されたチームで行いますから、これら医師の負担増はチーム全員の負担増につながります。

このような状況の中では、多くの病院が部分的に、あるいは全面的に地域から撤退する事も考えられます。

しかしながら、これからますます高齢化社会が深まると医療のニーズはますます高まるわけです。その意味でピンチはチャンスなのです。この厳しい環境に適應できる者のみが生き残り、一段と強くなって行くのです。こうした役割を担うものとして、希望に燃え、バイタリティーに富む新入職員に大いに期待するところです。

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》（1901）に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鳴らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

（編集部によるダイジェスト）



川崎幸病院消化器病センター誕生

川崎幸病院 副院長兼消化器病センター長 関川 浩司

2007年春、川崎幸病院に一羽の雛鳥が産声をあげました。川崎幸病院消化器病センターの誕生です。

これまでも川崎幸病院の消化器疾患診療については消化器内科・外科を中心に既に全国レベルの診療が行われておりましたが、今後は皆様方にとって、よりわかりやすい医療の展開を目指すとともに、より専門特化した医療の提供を目指しセンター開設に至りました。さて消化器病センターが構成するスタッフは2007年4月時点で消化器内科医3名、消化器外科医6名そして内視鏡検査技師6名となっております。今後もこれらのスタッフが一体となり消化器分野における先進技術の提供を行うべく、昼夜を問わず診療を行って参ります。

消化器内科部門では電子スコープによる上部・下部内視鏡検査は勿論のこと、拡大内視鏡(上部・下部)およびNBI(狹帯域光観察)をいち早く導入することにより粘膜の微細な異常を診断し、癌の早期発見の向上に貢献しております。また早期癌例に対してはEMR(内視鏡下粘膜切除術)は勿論のこと、最近ではESD(内視鏡下粘膜下層切開剥離術)も行っており、患者さんの苦痛が最小限に抑えられるように細径内視鏡の導入も行っております。さらには膵・胆道系疾患に関してERCP(内視鏡下逆行性胆管・膵管造影)施行症例数も豊富であり(2006年172例)乳頭切開術や採石術も積極的に行っております。特に最近では術前EST(内視鏡下乳頭括約筋切開術)施行困難例に

対しても消化器外科部門と協力し術中ERCP+ESTを施行し良好な成績をあげております。

消化器外科部門では消化器腫瘍外科と内視鏡外科を主な2本柱とし、常に標準かつ最新の医療提供と低侵襲手術の提供を行っております。外科における2006年の年間400例を超す全手術件数のうち消化器外科領域では300例以上の手術を行っておりますが今後も胃癌、大腸癌、胆道系疾患を中心に行なってまいります。また内視鏡外科分野でも2006年では全内視鏡外科手術件数172件のうち139件に消化器領域の手術を腹腔鏡下に行っておりますが胆石症に対しての腹腔鏡手術はもちろんのこと、この分野では高度な技術を要するいわゆるアドバンス手術である早期胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除術(LADG)やD3郭清(第3群までのリンパ節郭清術)を伴った進行大腸癌に対する腹腔鏡手術も積極的に導入しております。

■川崎幸病院消化器病センターの3大理念

1. 常に患者さんの立場にたった心のこもった医療の提供
2. 常に研鑽し、知識・技術の向上に努め最新の医療を提供
3. より良い医療環境の構築を行い安心できる医療の提供

川崎幸病院消化器病センターは上記の3大理念にて診療を行って参りますので今後ともご指導・ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。

★トピックス①

川崎幸病院、狭山病院「看護師確保対策本部」を設置 病院全体で看護師確保対策を推進

この度、川崎幸病院と狭山病院に「看護師確保対策本部」(本部長:川崎幸病院/岩井院長、狭山病院/青山院長)が設置されました。昨年の診療報酬改訂で「7:1」入院基本料が新設され全国の医療機関が看護師確保にしのぎを削る中、当グループも安全で質の高い医療を提供するため「7:1」体制の早期実現に向けて取り組んでいます。今回の対策本部設置はこの方針を両院においてさらに強力に推し進めるものであり、従来の看護師確保活動が看護部に依存するものであったことを見直し、

今後は院長を陣頭に診療部門、事務部門も加わった全院あげての重点的活動として推進する体制が整えられたと言えます。対策本部のメンバーは次のとおり

〈川崎幸病院〉

岩井院長、関川副院長、小林事務部長、水野特命副院長(看護師確保担当)、佐藤看護部長代行、菊池看護副部長、長田コメディカル部長、菅野事務副部長、佐々木総務課長代理

〈狭山病院〉

青山院長、持田事務部長、黒崎看護部長代行、水野看護部顧問、荒木看護副部長、田中看護副部長、守田コメディカル副部長、田村事務副部長

★トピックス②

～旧川崎胃腸病院～

川崎幸病院中原分院が新スタート

4月1日、旧川崎胃腸病院が『川崎幸病院中原分院』として新しくスタートしました。

新しい名称を得て、胃腸科の専門病院でなく広く川崎幸病院の各科との連携下で一体の運営が期待されます。

院長には4月より石丸博明先生(昭和42年

京都大卒)が新たに就任されました。なお、従来の診療科に加え、新たに心臓血管外科(大動脈外科)の安定期に入った術後の患者さんも受け入れる事になりました。

川崎幸病院 中原分院

★トピックス③

・『青梅マラソン』 ～狭山病院

マラソンチーム大活躍

・『多摩川リバーサイド駅伝in川崎』
～川崎幸病院・幸クリニック

■狭山病院職員有志チーム

『第41回青梅マラソン』に

2007年2月7日、狭山病院有志職員15名が市民マラソンとして最も伝統あるレース「青梅マラソン」に参加しました。メンバーは30キロコースが麻酔科/西迫

(医師)、手術室/松永・岩崎・西尾(看護)、生理検査/森田(検査技師)・大久保・羽生(臨床工学技士)、10キロコースが手術室/福島(看護科長)・鈴木・成田・玉城・鶴田(看護)、大原(看護科長)・永山・谷内(検査技師)の面々。レース参加に先立って



〈狭山病院有志〉

まずメンバーが準備したのは『石心会狭山病院』の文字入りTシャツ。気合いの程が伝わりますね。

30キロは青梅市の日本たばこ産業前を起点に奥多摩街道、国道411号線に沿って奥多摩方面に進み、青梅線の川井駅の先で折り返すコース。10キロは途中、宮の平駅付近で折り返し。まず10キロ、8名全員が制限時間の1時間15分以内にゴール。特に大原科長は1時間を切る好記録。続く30キロ、制限時間3時間40分と大変厳しく残念ながら2名が25キロで時間切れとなったものの5名が完走。半数以上がレース初体験という中でそれぞれに満足する走りができたとメンバーの声。何よりも同じ職場の仲間で励まし合いながら一つの目標に向かっていった一体感と充実感が最大の成果と言えるでしょうね。

■川崎幸病院・幸クリニック

『HAPPY 1』チーム

川崎市主催駅伝、ショートの部で優勝

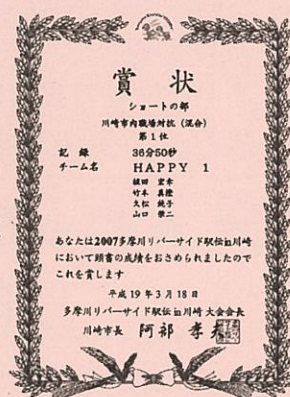
3月18日、川崎市主催の同駅伝、川崎市内職場対抗に出場した『HAPPY』の4チームが素晴らしい走りを見せ、なかでも『HAPPY 1』は堂々1位の栄誉を勝ち取りました。メンバーの中心でもある山口職員は大学時代、箱根駅伝のメンバーだったほどの実力者。



〈川崎幸病院・川崎幸クリニック有志〉

大会への参加は16名。きっかけは山口職員のレース経験を耳にしたリハビリ科職員から、自分たちもぜひトライしたいとの声上がり、それなら私もわれわれも、とエントリー希望が寄せられたとのこと。チーム名は「幸」にちなんで『HAPPY』に。

さて当日、寒風吹きすさぶコースを参加メンバーは走り抜きました。山口職員の話によるとゴールした瞬間は何位かわからない状態だったものの、目をやった速報掲示板には「1位 HAPPY 1」とありビックリ。他チームも立派な成績でした。“横のつながりを増やしてさらに楽しく明るい職場にしよう!”と結成したチームで誰でも大歓迎です”と山口職員。共に目標に向かって行く仲間というのは素晴らしいですね。



※今回のエントリーメンバー

HAPPY 1: 植田(幸病院総務)、竹本(幸病院検査室)、久松(幸クリニックラーク)、山口(幸クリニック総務)
HAPPY 2: 石田(幸病院放射線科)、亀井(幸クリニックリハビリテーション室)、原(幸病院リハビリテーション室)、酒井(幸病院施設課)
HAPPY 3: 佐々木(幸病院医務課)、桑原(幸クリニックリハビリテーション室)、川村(幸クリニックリハビリテーション室)、市川(幸病院放射線科)
HAPPY 4: 山本(医師リクルーター)、伊井(幸クリニック検査室)、山田(幸病院薬剤科)、武田(幸病院リハビリテーション室)
今回残念ながら参加できなかったメンバー:
増田(幸クリニックリハビリテーション室)、関川(幸病院副院長)
HAPPY 応援団: 植田奈津美(αメディック看護師)、今泉(幸クリニック患者サービス課)

《読書のすすめ》 心に残る本達

川崎幸病院内科部長 沢 丞

私は今までに、いろいろな本を読んできました。その自分自身の読書歴を過去・現在・未来に渡って振り返り特に心に残っているものを紹介してみたいと思います。

《過去》

■推理する医学

バートンルーチェ 西村書店

大学生になってタイトルを見て買った本です。「街のあちこちからホームレスが同じ症状で運ばれてくる」「ふと気付いたら両手の指が真っ青になっていた」、これら実際にあった謎を医師達がどのように解明していくか、そのプロセスに興奮させられました。

■実験医学序説

クロード・ベルナール 岩波文庫

「医学を志す者、最低限これは読め」と基礎医学の教授から言われた本です。如何に実験精神をもって医学が対象とする生命現象の探求を行うかという指針が熱く語られています。学問する姿勢を本書から学びました。

《現在》

■漱石文明論集 岩波文庫

「美しい国」を謳い文句にした政治家がいますが、その「国」とは一体何であるのかは明確になっているのでしょうか？日本とは何か？日本人とは？そのような議論が真剣に行われた明治維新後の文明開化において、夏目漱石が用意した視点での日本というものが良く分かる本です。

■コペンハーゲン

マイケル・フレイン 劇書房

第二次世界大戦下、ナチスドイツ占領中のデンマーク、コペンハーゲンに住む原子物理学の権威者であるボーアの自宅に、ドイツ気鋭の若手学者であるハイゼンベルクが謎の訪問をする。登場人物三人の戯曲で語られる学問、倫理、政治、愛、苦悩・・・芥川の「藪の中」のようですが、更に深く「人間というもの」を洞察していると観じます。

《未来》

■日本庭園雑考一庭と思想

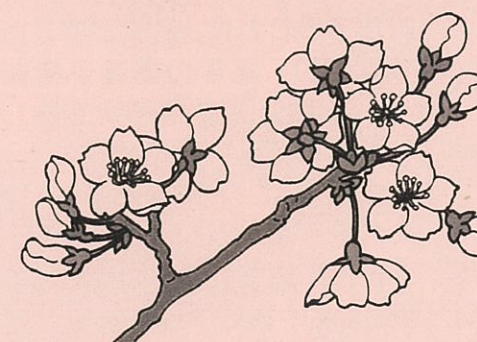
長谷川正海 東洋文化社

「日本民族にとって自然は神である」と説く、医学者でもある筆者が、造形芸術である日本庭園には心や思想があるとして「庭の心を読め」と独自の視点で庭園を論じた名著です。膨大な史料が背後にあるため、その語りを読み切ることが大変な本です。

■薔薇の名前

ウンベルト・エーコ 東京創元社

映画化もされた大著です。単なる推理小説ではなく記号論、宗教論など内容はまさに迷宮。この迷宮を解き明かすのには、まだまだ時間がかかりそうです。



《趣味探訪》

往診かばんには修繕道具

川崎幸クリニック 院長 杉山 孝博

趣味といえば非日常的で、実利性から離れたものという受け取り方もあるが、(編集子の趣味などまさにその典型である)一方で趣味と実益を兼ねるという言葉もある。杉山先生の多種多様な趣味に至っては、もはや「趣味と実益の一致」といって過言ではないところがすばらしい。

「言行の一致」、「理論と実践の一致」など、一致と言う言葉は美しく好ましい響きを持つが、「趣味と実益の一致」もこれらの中にあって、なんら引けをとるものではない。そのような意味で、ぜひ杉山先生の趣味を披露してほしかったというのが原稿依頼の真意である。余談であるが、杉山先生の人生を貫く姿勢は質実剛健。趣味もまたこの範疇にあって、しかも光彩を放っている。さすがは家康公を支えた三河人の末裔と感心するばかりである。(編集部)



〈杉山孝博院長〉

「ものを大切にすること」ことは、物不足の時代に育った私にとって身に染み付いた心構えです。故障してもすぐ買い換えるのではなく、修理して使えるようにする、それも単に部品の交換ではなく、色々工夫して修理するようにしています。そのために、ねじ類、クギ類、板金類、ゴム・プラスチック類など様々な材料を捨てないで取っておき、必要な時に加工などして使います。

大学時代に購入したヘアドライヤーを、購入5～6年後にモーターの軸受けが欠けたため修理に出そうとしたところ、「部品がありません。購入した方が安いですよ。」といわれ

ました。それでもあきらめずに、プラスチックを削って軸受けを作ってみたら十分使えるようになって、2年前まで約36年間使うことができました。また、37年前に購入した扇風機は、時々修理をしながらですが、今も現役で動いています。電気掃除機のコード巻取りリールが故障したとき分解して修理し、取っ手が折れたときは電気ドリルで取っ手と本体に穴を開けてテグスを通して使えるようにしました。

ものを修理することは、治療と同じだと思っています。構造や機能の異常に気付いて(病理、早期発見)、正常の構造や機能と比較して(解剖、生理)、電気回路であればテスターなどを用いて故障箇所を探して(検査)、どこが故障しているかを判断する(診断)、その上で修理する(治療)ことになります。故障の発見には日常的な注意力が必要です。たとえば、ドアがボタンと音を立てるようになったり、電化製品を使っているうちに雑音が聞こえるようになったりした場合、何かおかしいなと感じて、何が原因だろうかと考える姿勢がないと、修理はできません。

私は、電気製品や複雑な混合水栓なども分解して修理してきました。専門家と違って初めて内部を見るわけですから組み立てなおせなかったらどうしようかという不安は

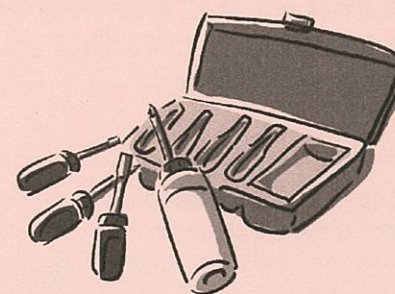
ありますが、構造や機能を考えながら注意深く行ってきたので、今まで失敗した例はまずありません。

趣味を、他人には関心がなくても当人にとっては真面目で強く執着し、努力を注ぐことやその対象、ととらえれば、私も、関心を持ち始めるとかなり執着してきたものです。例えば、一眼レフのカメラやビデオカメラを購入したときには、構図のとりかた、風景・人物・行事の撮影法、フラッシュの使い方などのマニュアル本をそれぞれ5～6冊購入して読破しましたし、庭を作り直したときには、庭木の種類、肥料の施し方、病虫害と消毒法、バラの種類と剪定の仕方などの本を何冊も読んだものでした。電気ドリル、電気サンダー、テスター(電気回路を調べる道具)、万力、かん類、ノミ類、やすり類、ガラス切り、ねじ切り、タップなど、様々な道具がわが家にはそろえてあって、必要に応じて使っています。ただし、時間がないこともあって、大物を作ることができないのが残念です。

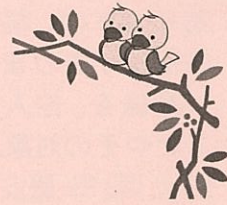
川崎幸病院の時代も、またクリニックの現在も、自転車のパンクの修理、椅子や血圧計などの修理は、ほとんど私が行っています。「川崎幸クリニックすぐやる課」「陰の修繕課」「先生は、医者を辞めても食べていけますね」とも言われることがあります。訪問診療においても、「私の趣味」が有用な場合が少なくありません。庭木や草花の話をするとうちや家族との親密感が非常に増します。一人暮らしや高齢者世帯を訪問したとき、簡単な故障などはその場で直したこともあります。同行するナースから、「往診かばんにねじ回しやペンチなどを入れておく必要がありますね」と、すかさず言葉がかかります。

最後に紹介しますが、趣味として最も長く続いているものは切手蒐集です。発売される特殊切手(記念切手)を毎回購入するだけの単純なものですが、小学校5年生から始めましたので、足掛け50年弱になります。大学生のときに断続したことがありますが、最近50年間に国内で発売された記念切手は大部分持っています。実益も兼ねていまして、私が差し出す郵便物には必ず記念切手を貼っていますので、受け取った人からは喜ばれます。かつて、旅行に行くときは旅行先の国立公園などの記念切手を用意して、絵葉書に貼って投函するなどこだわったこともありました。

最後に、仕事や家事に忙しい職員にも、この文章を読んで、このような趣味がある事を知っていただき、趣味の世界に目覚めていただければこれに勝る喜びはありません。



ミュージック・サロン



■さやま総合クリニック ヘルシーコンサート♪

毎月一回(第一土曜日)開催される「さやま総合クリニックヘルシーコンサート」。
今回は開院5周年を記念して開催された3月10日の模様をレポートいたします。

地域の皆様にすっかりおなじみとなった「ヘルシーコンサート」。今回も会場のクリニック3階ピアノホールは満員です。

まず演奏されるのは「タイスの瞑想曲」。この曲はジュール・マスネ(フランス)による歌劇「タイス」(1984年初演)の第二幕・第1場と第2場の間奏曲で、その美しいメロディーは広く知られています。会場でヴァイオリンが奏で始めた旋律はやがてチェロ、オーボエへと引き継がれ、その甘美な調べは会場の皆さんを夢見心地に包み込んで行きました。後に続く曲目「オブリビオン」「アヴェ・マリア」「愛の言葉」もまた音楽の美しさを堪能させる名曲達です。演奏後の会場の皆さんの音楽に酔いしれた表情が印象的でした。

■日 時：3月10日(土) 18:30~20:30

■出 演：藤森亮一(チェロ)、宮村和宏(オーボエ)、
重岡菜穂子(ヴァイオリン)、齋藤麻衣(ヴィオラ)、
村沢裕子(ピアノ)

■曲 目：タイスの瞑想曲、オブリビオン、アヴェ・マリア、
愛の言葉 他

■参 加：80名



※演奏家プロフィール

藤森亮一：東京音楽大学卒、現在、NHK交響楽団の
首席奏者として活躍。

宮村和宏：東京芸術大学卒、現在、東京佼成ウィンド
オーケストラのオーボエ奏者及び、副コン
サートマスターとして活躍。

重岡菜穂子：東京芸術大学卒、現在、同大学院在学中。
齋藤麻衣：東京芸術大学卒、現在、東邦学園大学大学院
在学中。

村沢裕子：武蔵野音楽大学卒、現在、東京、埼玉を中心に
アンサンブルのピアニストとして、コン
サート活動を行い活躍。



☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師(現狭山病院長)が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニストコンディ・リが練習用に愛用したものです。

★トピックス④

【川崎幸病院】

●2月12日 分散していた地域医療連携室、医療相談科、ディスチャージ科を松井ビル1階に移転し、業務の効率化を図る

●3月6日 消防訓練

●定例救急隊勉強会(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)

・1月30日 『脳血管内視鏡について』(講師：脳血管内治療科部長/津村貢太郎)

・2月8,21日 『緊急内視鏡が必要な疾患と治療法について』(講師：内視鏡科長/渡部博一)

・3月8,19日 『放射線科と救急医療』(講師：放射線科長/柚木園隆)

●地域医療連携・公開カンファランス

・3月3日 『心肺蘇生とAEDの使用法』(講師：救急部医長/三村琢也) 参加者60名

・3月29日 『川崎幸病院外科2006』(講師：副院長兼外科部長/関川浩司、外科医局員) 参加者46名

●NST委員会主催勉強会

・1月24日 『内視鏡的胃瘻造設術』

・2月21日 『安全な経口摂取を始める前に』

・3月27日 『だれでもできる栄養サポート』

【狭山病院】

●1月19日 狭山地区新年会 参加者233名

●1月16日 病棟個室料金の金額変更及び徴収する個室の追加

※3階北病棟363号室・3階南病棟313・317号室(個室料金の変更):7,350円→5,250円

※西病棟280・380・381号室(徴収する個室の追加):7,350円

●2月15日 看護部サービス向上委員会による接遇優良者(スマイリー&カインドリーナース)表彰
受賞者：六反勝美・菖蒲江里奈・三ツ木千明

●2月15日 認定看護師によるコンサルテーションの開始

※看護の現場におけるケアの広がりや質の向上を図ることを目的とし、重症集中ケア認定
看護師2名、ホスピスケア認定看護師1名によるコンサルテーション活動を開始しました。

●3月18日 東棟・医局・研修室改修工事

●院内勉強会

・1月23日 『看護部医療事故防止対策報告会』(演題11題あり) 参加者72名

・2月6日 『認定看護師の役割を知って活用しよう』 参加者40名

・2月17日 『コメディカル部発表会』(各部署より演題10題、特別講演1題あり) 参加者102名

・3月24日 『初期研修医症例発表会』(演題13題あり) 参加者48名

●地域医療連携・公開カンファレンス

・1月19日 『肝炎・肝臓の予防と治療』(講師：旭ヶ丘副院長/柿沼徹) 参加者31名

・2月9日 『炎症性腸疾患の新しい戦略』(防衛医科大学校病院消化器内科教授/三浦総一郎) 参加者41名

・3月9日 『メタボリックシンドロームに関する諸問題』(講師：狭山病院内科副部長/三好洋二) 参加者44名

【川崎胃腸病院】

●2月17日 内覧会〔対象：住吉地区14町内会役員〕 参加者：各町内会長及び副会長12名

【川崎幸クリニック】

- 気功教室 講師 臨床心理士 稲富正治

・ 1/24,26 参加計 6 名 ・ 2/21,28 参加計 7 名 ・ 3/27,30 参加計 2 名

- 食事の教室 管理栄養士

・ 2/20 『高脂血症予防の食事・講義』～コレステロール・中性脂肪を下げるために～ 参加者16名

・ 3/23 『高脂血症予防の食事・調理実習』～コレステロール・中性脂肪を下げるために～参加者21名

- 転倒予防教室 ・ 1/11 ・ 2/1 ・ 3/1 参加者合計43名

(講師:整形外科非常勤医師/持田、看護科長/門間、理学療法士/増田・川村、栄養士/清水)

- 第4回QC活動 2/24 参加者40名

【さやま総合クリニック】

- 外来糖尿病教室 ※各回4日で1講座です。 参加者10名

・ 第1回 『糖尿病とは』 1/11 2/8 3/8

・ 第2回 『合併症と糖尿病の飲み薬』『足の手入れについて』『検査について』 1/18 2/15 3/15

・ 第3回 『インスリン療法』『運動療法』 1/25 2/22 3/22

・ 第4回 『食事療法』 2/1 3/1 3/29

【川崎クリニック】

- 3月17～18日 『ハイパフォーマンス・メンブレン研究会』(会場:ニッショーホール)

※当院臨床工学技士/亀井・佐藤が発表

【さいわい鹿島田クリニック】

- 健康講座 1/20 『生活習慣病を防ぐ食事』

3/17 『マンモグラフィってなあに? 乳ガン検診を受診しよう』

【アルファメディック・クリニック】

- 1月26～27日 日本総合健診医学会第35回大会(岡山市) 参加者1名

- 1月30日 消防訓練 参加者32名

- 3月24～25日 職員旅行(南房総鴨川温泉)

【川崎健診クリニック】

- 2月 7, 8日 全国労働衛生団体連合会 保健師看護師等専門コース講習会 参加者1名

- 2月 9,10日 全国労働衛生団体連合会 生理機能検査講習会 参加者1名

- 2月26,27日 全国労働衛生団体連合会 臨床検査技師講習会 参加者1名

- 3月24～25日 職員旅行(南房総鴨川温泉)

【オリーブ】

- 1月23～25日 入間野中学校生徒職場体験

- 2月16日 あおば幼稚園園児との交流

- 3月24日 開設記念の集い

【新緑会】

※新緑会脳神経外科

- 2月27日 院内勉強会『血小板凝集について』 参加者30名

【本 部】

- 1月12日 石心会川崎地区合同新年会 参加者384名

